

日本経営倫理学会会報

JAPAN SOCIETY FOR BUSINESS ETHICS STUDY

2017年11月度研究交流例会開催報告

常任理事 葉山彩蘭（淑徳大学経営学部・教授）

11月18日に一橋大学大学院商学研究科の田中一弘教授にご登壇いただき、研究交流例会（講演会）を開催した。田中教授は、「第1部 良心による企業統治」と「第2部 コーポレート・ガバナンス改革とその限界」に分けて報告を進めた。

「第1部 良心による企業統治」において、田中教授はまず「自利心による企業統治」と「良心による企業統治」について、通常「コーポレート・ガバナンス」と言われる前者は、賞罰を通じて経営者の自利心に訴える外発的動機づけであるのに対して、後者は経営者が自らの良心で自律するという内発的動機づけであると説明した。また、企業の利害関係者が互いに責任、義務、信頼を感じ合うことによって規律が生まれる「良心による企業統治」こそが、日本型企业統治の核心だったのではないかと指摘した。「良心による企業統治」では、企業が共同体、そして従業員のものとして捉えられ、経営トップのリーダーには自制的な倫理観が誰よりも求められている。しかし、今日のガバナンス改革では、社外取締役を含む独立性の高い取締役会によって経営者を牽制し、また業績連動性の高い報酬制度によって経営者にインセンティブを与える場合が多い。いわゆるアメとムチによる規律づけを通してのガバナンスである。今日のガバナンス改革は「良心による統治」よりも「自利心による統治」に偏しているといえる。

「第2部 コーポレート・ガバナンス改革とその限界」において、田中教授は、現行のガバナンス原理における「株主偏重」と「自利心依存」の問題点を指摘した。経営者の判断には「バランス」が最重要課題として求められているにもかかわらず、株主や投資家の要求に聞き従うことが、正しい判断を保証できるかが疑問である。また、牽制（ムチ）とインセンティブ付与（アメ）によって経営者の損得勘定（＝自利心）に訴えることを通じて、自利心依存が当たり前の基準になり、良心が駆逐されて益々自利心に依存せざるを得なくなる悪循環に陥るといった随伴的結果をもたらすのである。では、真のガバナンス改革の解決案とは何であろうか。

田中教授は、ドラッカー（1974）の言葉を引用し、「経営の本質は責任にほかならない」と述べた。また、経営者は会社法人の信任受託者であるが（岩井 2009）、株主の代理人ではない。株主の利益のためにも、株主は経営者を信じて経営を任せるべきである。最後に、田中教授は『論語』の「君子ハ義ニ喩リ、小人ハ利ニ喩リ」（原文：君子喩於義、小人喩於利）を挙げ、企業統治の核心である「良心」が働きやすくするためには、「良心が主、自利心が従」という「良心と自利心の併用」という企業統治方針を提案した。

当日、50名以上の会員が出席し、2時間にわたって田中教授の素晴らしい講演に熱心に聞きいていた。大盛況の研究交流例会となった。貴重なお時間を割いてくださった田中教授には改めて心より感謝申しあげる。



第6回 CSR 構想インターゼミナールの開催報告

理事 高田 一樹（南山大学大学院ビジネス研究科・准教授）

10月7日に千葉県浦安市で第7回 CSR 構想インターゼミナールを開催した。マイステイズ新浦安に会場を設け、東京ディズニーセレブレーションホテルでの宿泊を案内した。今回は初めて共通テーマ「テーマパークを活用したCSRの可能性と課題」を掲げ、4月より参加ゼミを募集してきた。申請書には所属ゼミの紹介と発表概要の詳述を求め、7月末に応募受付を締め切った。事務局の審査を経て、8大学9ゼミにご登壇いただいた（以下は当日の発表順）。

- ①関西大学・横山恵子ゼミ「USJへのソーシャルビジネス提案」
- ②常葉大学・文載皓ゼミ「総合的な地域活性化事業—遊休地を利用した豆乳・豆腐の製造」
- ③帝京平成大学・小方信幸ゼミ「テーマパークのフードロス削減に関する提案—ドギーバッグによるフードレスキュー」
- ④関西大学・高野一彦ゼミ「従業員のモチベーションと危機管理の実効性に関する—考察—テーマパーク事業における災害対応の取組に関する事例研究」
- ⑤お茶の水女子大学・斎藤悦子ゼミ「教育をテーマとしたテーマパークにおけるジェンダー意識改革」
- ⑥南山大学・高田一樹ゼミ「日本の過去と未来のための新たな体験型おもてなし—オリンピックの先へ、オリエンタルランドが目指すCSR」
- ⑦慶應義塾大学・梅津光弘ゼミ「フィリピンへの衣服発送での支援」
- ⑧東北大学・高浦康有ゼミ「Koboパーク宮城を活用したCSR—“東北”のプロ野球チームとしての地域貢献」
- ⑨跡見学園女子大学・宮崎正浩ゼミ「自然と共に生きるテーマパーク—東京ディズニーランドによる熱帯雨林の再生プロジェクト」

7日10時から発表大会を開始した。会場には、学生と教員あわせて120名あまりが集った。各大学のゼミ生は自己紹介を行い、15分間の研究発表に臨んだ。発表後には教員や学生から質問の手が挙がっていた。前回に引き続きポスター・セッションを実施し、研究内容を1枚の模造紙にまとめ、会場の壁面に掲示した。昼休みの時間帯には学生がポスターの説明を行い、他の学生や教員と質疑応答に臨んだ。

教員審査の結果、最優秀賞を斎藤ゼミ、優秀賞を高野ゼミ、佳作を横山ゼミ、ポスター賞を高田ゼミが受賞した。大会後には場所を移して懇親会を催した。今回のインゼミに参加した学生たちは翌日、東京ディズニーランド／シーを観覧した。参加者の献身もあり、今回も盛会のうちに幕を下ろした。末筆ながら、日本経営倫理学会による当インゼミへの経済的支援に深謝を申しあげる。



若手研究者育成研究部会発足と第一回研究会開催報告

会長 梅津 光弘（慶應義塾大学商学部・准教授）

かねてより懸案であった、当学会の若返りと将来の大学における研究・教育の担い手の育成を目的とした研究会がスタートした。英語名は Emerging Scholars Workshop であり、アメリカ経営倫理学会の大会における同様の催しを参考に設置申請し、9月の理事会で承認された。対象者は院生、ポスドク研究者、また非常勤講師などであるが、必ずしも年齢が若くなくてはならないということではない。

大学院での研究生活は長く、孤独なものであり、また経営倫理を専攻する院生や研究者は散在していることから、年に数回をめぐりにこうした機会を設け、指導教員も含めて博士論文の中間報告や、様々な情報交換の場を設けていこうという趣旨である。

第1回若手研究者育成研究部会は9月10日（土）慶應義塾大学三田キャンパスにて開催された。当日のプログラムは「Emerging Scholars Workshop 開催について」挨拶及び講話（梅津会長）に始まり、「研究計画書作成のポイントー学振特別研究員及び科研費等申請を参考に」の話が中谷理事、岡部理事からなされた後、大学院生による論文発表会がドクトラル・コンソーシアムとして開かれた。木田世界氏（横浜国立大学大学院生）と鈴木貴弘氏（明治大学大学院生）がそれぞれ「自動車販売店舗における従業員満足度と顧客満足度の関係」、「経営倫理研究における徳倫理の有用性」のテーマで研究発表を行った。当初は参加者が少ないのではないかと危惧していたが、大学院生7名、研究者7名が参集しとても良い場を持つことができた。

なお第2回目の会合は12月23日（土）10時より慶應義塾大学三田キャンパス473番教室において開催される。参加ご希望の向きは事務局までお問い合わせいただきたい。

第26回研究発表大会のお知らせと発表者公募の件

第26回研究発表大会実行委員長・理事 野村千佳子
（山梨学院大学経営情報学部・教授）

2018年度の研究発表大会は6月23日（土）～24日（日）に山梨学院大学（山梨県・甲府市）にて開催予定である。

本大会では2020年の東京オリンピック開催を前に「スポーツと経営倫理」を統一テーマとし、スポーツ倫理、スポーツ団体・スポーツ統括団体のガバナンス、大学スポーツのあり方等について検討していきたい。

発表を希望される方は別途配布する募集要項（JABESウェブサイト <http://www.jabes1993.org/>）にも掲載予定）に従ってご応募いただきたい。

【募集要項概要】

1. 応募資格：日本経営倫理学会会員
2. 応募締切：2018年3月3日（金曜日）（3日消印有効）
* 要旨および予稿の電子データと出力原稿4部を提出のこと。
3. 応募先：日本経営倫理学会 第26回研究発表大会実行委員会
4. 問合せ先：日本経営倫理学会事務局（info@jabes1993.org）

第 156 回理事会 (2017 年 9 月 16 日) 議事録 (要旨)

【決議事項】

(1) 新入退会者承認の件

新入会員 3 名 (正会員 1 名、学生会員 2 名)、および退会者 3 名 (正会員) 承認。会員数は 472 名に。

(2) 新規研究部会立ち上げの件

梅津会長より新たに「若手研究者育成 (Emerging Scholars) 部会」(部会長: 梅津会長) の設置提案があり、若手に該当する本部会の具体的な対象者を明記するとよいなどの意見があった後、一同承認。

(3) 平成 30 年度研究発表大会統一テーマ等決定の件
平成 30 年 6 月下旬の日程で、山梨学院大学にて開催する方向で再調整。統一テーマについては引き続き関係者間で検討の上、次回理事会にて審議・決定する。

【報告事項】

(1) 平成 29 年度研究発表大会 (慶應義塾大) 総括の件
梅津会長、事務局より大会実施及び収支報告。

(2) SBE (米国経営倫理学会) 交流報告の件
梅津会長より 8 月にアトランタで SBE の年次大会が開催され、岡部理事と本橋会員が参加、交流したとの由。

【懇談事項】

(1) 第 9 回経営倫理シンポジウムの件

来年 1 月 18 日もしくは 25 日に慶應義塾大または BERG

にて SDGs をテーマに開催する方向で調整中。本シンポジウムの担当委員を希望する方は事務局まで相談してほしいとの連絡。

(2) 関連団体に関する情報共有

事務局より 11 月に明治大学にて経営関連学会協議会・第 10 回公開シンポジウムが開催されるとの案内。

【確認事項】

(1) 次回研究交流会の開催について

梅津会長より、今後の研究交流会については、来年 1 月 20 日 (土)、3 月 17 日 (土) に開催予定との通知。

(2) その他

・事務局より、学会誌の印刷業務について、これまで委託していた会社の閉鎖に伴い、費用面等を考慮した結果、第一印刷 (株) に変更するとの連絡。また、学会ホームページの運営・更新に関連し、ソフトウェアの年間サポートを延長するとともに、野村拓治会員に協力を要請するとのこと (将来的には英文ホームページを充実してほしいとの要望あり)。

・梅津会長より、故水谷元会長名義となっている、当学会の商標権及び学会使用 (BERG と併用) の電話債券の名義変更を当年度内に予定しているとの報告。またご息女の意向等も踏まえ、当学会で「水谷賞」を新たに創設することなどを検討したいとの由。

平成29年度年会費納入のお願い

先般の年次総会で決議された通り、学会の諸活動を推進する財源である年会費につき、以下の通り納入をお願いいたします。

◇年会費: 正会員・1 万円 学生・3 千円 法人(上場)・5 万円 法人(非上場)・3 万円

◇年会費支払い状況などのお問い合わせは、以下の事務局まで、お願いします。

◇年会費自動振替のお手続きがお済みでない方は、切り替え手続きをお願いいたします。

【学会連絡先: 東京事務局】

〒107-0052

東京都港区赤坂 1-1-12 明産溜池ビル8階

Tel 03-6441-0640 Fax 03-6441-0641

E-mail: info@jabes1993.org

担当: 蟻生常任理事(会報)

河口常任理事(総務)

発行: 日本経営倫理学会

編集後記

今回、3度目の編集のお手伝いをさせていただきました。昨今は、神戸製鋼、三菱マテリアル、東レ、日産自動車、SUBARU といった名だたる企業グループにおいて、データ改ざんや無資格検査といった製造現場での不正問題が次々と明るみになっています。長年、作業慣行として現場に染みついていた数値合わせや名義貸しのテクニック。それは現場での「すり合わせ」力を高める、優れた暗黙知であったかも知れません。コンプライアンス全盛の時代、そうした不透明なやり方は許容されなくなったということでしょうか。経営者はアダムスミスのような、公平無私なる観察者の視点であらためて現場のガバナンスを捉え直すことが求められそうです。田中一弘先生が提起された、良心第一義のコーポレート・ガバナンス論を伺いながら、そんなことを考えました。

(編集担当/理事 高浦康有)